

### 第3回 清瀬市新庁舎建設基本計画策定委員会 議事録（要旨）

日 時： 平成26年2月14日（金曜日）17:00～18:00

場 所： 清瀬市役所4階 第1・第2委員会室

事務局： 企画部企画課公共施設整備係

出席者： 委員11名（澄川委員、齊藤委員、三井所委員、山本委員、波澄委員、  
小山委員、下嶋委員、中川委員、林委員、菊間委員、  
八代田委員）

その他5名（企画部長、企画課公共施設整備担当課長、他3名）  
コンサルタント3名（山口、上原、一戸）

欠席者： 委員1名（平倉委員）

傍聴者： 1名

#### 会議次第

1. 開催の挨拶
2. 前回議事録確認
3. 配布資料説明
4. 議事  
(1) 新庁舎に求められる機能について
5. その他
6. 閉会

#### 配布資料

- |                                                                                                                                                 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・ 本日次第</li><li>・ 第2回委員会議事録（案）</li><li>・ 新庁舎の基本理念（案）について</li><li>・ 第3回委員会資料集</li><li>・ 清瀬市内農地の推移</li></ul> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 審議経過

### 1. 開催の挨拶

委員長より開会あいさつ。

### 2. 前回議事録確認

(委員) 第2回議事録(案)の表題部分に誤記がある。

(事務局) 修正します。

### 3. 配布資料説明

(事務局) 資料について事務局から説明。

(コンサルタント) 新庁舎の基本方針(案)【2枚目】についてコンサルタントから説明。

### 4. 議事

(委員) 清瀬市内農地の推移について、雑木林の比率はどうか。

(事務局) 清瀬市の緑被率は、市の面積の約4割を占めます。農地が約2割で、残りが雑木林です。緑の基本計画では、平成32年までこの比率を維持する計画になっています。

(委員長) ところどころにある武蔵野の面影が残る場所を大事にしたい。

(委員) 宅地内に含まれる緑地についてはどうか。

(事務局) 屋敷林も含めた緑被率となっています。

(委員) 職員アンケートを行うことはいいことだと思う。現庁舎への問題点と、新庁舎への期待を聞いてほしい。

(委員長) アンケートはいつ頃行う予定か。

(事務局) 4月になると新年度になり、組織体制が変わるので、新年度になって早い段階で実施する予定です。アンケート方法は職員向けのパソコンにメールを送り、集計をします。

(委員) 庁舎近辺に現在食堂が無いので、庁舎内の食堂を一般の人も利用できるように整備したほうがいい。現在は地下にあるが、場所も含めて魅力あるものにすれば、利用者がいると思う。

(委員) BEMSとは何のことか。

(コンサルタント) ベムスと言います。ビルディングエネルギーマネジメントシステムの略です。新しい大規模な建物等は、空調や電気等大量のエネルギーを使用するため、できるだけ効率的にエネルギーを使うための制御システムとお考えください。

(委員) 今後の社会背景予測について、少子高齢化が進み、税収が減るとい

う見込みがあるが、庁舎規模の縮小が必要なのか。高齢者が増えるので、庁舎規模を増やさなくてはいけないのか、必要な庁舎規模の見込みはあるのか。

(委員) 事務局は施策事業の重点化と説明していたので、色々なものに補助金を出していくやり方ではなくて、施策的に必要なものについて重点的に補助金を投入していくやり方に変化していくものと考えられる。

新しい市民連携を考えて、重要な事業に市民が参加、投資していく新しい道を考え直していく時代に入っていくと、一般には認識されていると思う。市民と一緒に工夫していくということ。

(委員) 「市民に親しまれる庁舎」の中で書かれている機能について、市民が受け身のような表現になっている。市民の力を活用すべきだと思う。

力を持っていても、どこにも活かされていない、活かす場がないなどの問題があるので、市民の力が活用できるような新庁舎整備が望まれる。

市役所が何でもやる時代ではなく、市民の力を借りるという発想の転換を職員にも持っていただきたい。

(委員) 市民から期待されるものとして、「安心・安全」「効率性・利便性」「誇り・愛着」を一般論として3つ掲げたと言っていたが、これがなぜ一般的な意見なのか。また、一般的な意見でいいのか。

(事務局) 「第3回委員会資料集」の中に、他市でまとめている基本理念・基本方針の設定事例があります。一般論という表現が適切な表現ではなかったかもしれませんが、他市で上げられているキーワードから、市民の方に期待されているものは、主に3つの観点ではないかということで記載しています。

(委員) 最大公約数の意見で、清瀬らしさはどこにあるのか。

(事務局) 「誇り・愛着」の部分が清瀬らしさにつながるのではないかと考えています。

(委員) キーワードを集めて記載するだけでいいのか。

(委員) 「災害に強い庁舎機能」とあるが、清瀬にとって災害とは何か。清瀬市の特性から今までの災害事例として、水害などは当てはまらないのでは。

今、清瀬が一番考えなくてはならないのは地震のことではないか。「地震に強い庁舎」など清瀬市に特化した表現にした方がいいと思う。

今後考えられる災害は、地震以外にあるのか。

(事務局) 河川の氾濫は考えられないが、近年のゲリラ豪雨などにより窪地で床上浸水等の事例はあります。畑や緑地面積の減少により、雨を吸収する土地が減っていることから、内水浸水が発生しやすくなっています。

(委員) 市民にわかりやすいように、アピールが必要かと思う。

(委員) 具体的な方策の部分に免震構造、耐震構造等の地震についての方策について記述がある。

(委員) 一般的な表現だとわかりにくい部分もある。例えば大林組の研究所は最新の地震対策をしていると思うが、周辺の建物が被害にあっても新庁舎と大林組の研究所は問題ないなど、分かりやすい表現がいいのではないかな。

「ユニバーサルデザイン」もわかりやすく、「車いすの人が来ても何不自由なく使用できるようにする」などの表現ではどうか。わかりやすく訴えるような表現があるとわかりやすい。

機能面で使い勝手が良い方が、誇りや愛着が湧いてくると思う。建物のデザインよりも機能的な面に関してアピールできたらいい。

(委員長) 市役所は市民の金庫のようなもので、地域の金庫として頑丈なものをつくらなくてはならない。

(委員) 「誇りと愛着が持てる」とあるが、余りにもテーマが広すぎて、分かり難いものとなっている。「市民のつながりが広がる庁舎」などがいいのではないかな。

新庁舎で整備する食堂などで、障害者雇用につながればいいと思う。肢体障害者の雇用に比べ、知的障害者の雇用が清瀬市の中ではまだまだかなと感じている。

「ユニバーサルデザイン」も障害者の人にはなじみが深い、「障害者が安心して利用できる」と言えば、一般の人にとっても使いやすいのは当たり前なので、そういった表現がいいかと思う。

(委員) キーワードで基本理念をつくっているが、分かりやすい表現にするべきだと思う。「絶対倒れない庁舎にします」「誰もが使いやすい庁舎にします」など、役所は「安心・安全」などの言葉を使いたいのだろうが、違う表現がいい。

(委員) 庁舎をつくることで、街がどうよくなるのか考えると、庁舎の周りは明るく安全にすることができるといい。引っ込んだ位置で暗いと、寂しい感じになる。庁舎を利用しなくても、周辺に安心感を与えるような庁舎にすべき。

また、庁舎は使わないと愛着が湧かない。手続きだけの庁舎では愛着は湧かない。市民力を湧かせるようなことが出来るような機能が庁舎にあるといい。使ってもらえるような庁舎にすべき。

(委員) 単独庁舎のような印象を受ける。今後の社会背景からすると税収が減って、扶助費が増加することが予想されている。敷地内に入るかわからないが、使いやすい庁舎とするために、複合施設とすることは考えられないのか。そうすることで、みんなが集まりやすい庁舎に出来るのではないかな。

(委員長) みんなが雑談し、助け合えるようなスペースも必要になってくるかと思う。

(委員) 分散化している庁舎を全て集めるのは無理があると思う。駅前に残すべき機能は残したほうがいい。清掃事務所も新庁舎に配置する方が、市民にとって便利だと思う。

(委員) 他の施設の老朽化対策と合わせて、容積率の範囲内で新庁舎に含める機能を精査すべきと思う。

(委員) J Aの敷地について交渉していると思うが、J Aを新しい庁舎に入れることはできないのか。J Aにも利用率が上がるなどのメリットがあるかと思うので、提案して話を進めたらどうか。

(委員長) 周辺の建物を新庁舎に含めるということは、明示することはできないが、方法として、そのようなことも含めた言葉になればいい。

(委員) 現在の清瀬市には、市内は当然だが、清瀬を市外にアピールするような観光課のようなものはあるのか。

(事務局) 所管している部署はあるが、専門にしている課はありません。

(委員) 基本理念については、どれも重要な事だと思うし、分かりやすい言葉で表現することも重要だが、災害に関することや、バリアフリーに関することは、新しい庁舎を整備するうえで、当然ついてくる機能だと思う。

そこから清瀬らしさを出すため、緑や畑と言った、豊かな自然をアピールできるように、市外からの観光客を呼び込めるようなスペースがあったらいいと思う。

食堂に地産地消の清瀬の野菜を使ったものを提供することや、特産物のコーナーを設ける等が考えられる。

(委員長) 美術館で外部業者にレストランを営業してもらい、成功している事例もある。

(委員) 話を聞いていると、こんなスペースが欲しいなどの意見が目立つ。現在敷地での建替えを前提で考えているが、意見を詰め込み過ぎて、規模が膨れ上がってしまうのではないか。利用し易さを考えたら、駐車場の確保が第一ではないかと思う。

(委員) 「誇りと愛着」と言うことが、適切な言葉か分からないが、「愛着」という言葉に関すると、市内見学で見た児童センターは利用者が多い。駐車場も広く、周りに自然も多いことも一つの要因かと思う。建物の前に神山公園があるので、室内だけではなく、外でも遊ぶことができる。

「愛着」という機能を、新庁舎にどのように持たせるか。新庁舎がその象徴とすることもできるが、庁舎がその一部を担う形とし、周りの施設と繋げて、愛着を持たせる仕組みを考えることもできるのではないか。

清瀬市には観光資源で立派なものはないが、けやきロードギャラリーや豊かな自然環境など、繋げれば色々なものがある。今の市の考え方は市内でク

ローズするように感じているが、本当は市域を超えた一体的な考えができれば、もう少し価値のあるものができると考えている。他の施設との関係性を見て、市庁舎の機能に自然や文化と言った機能を盛り込むことが期待できるのではないだろうか。

(委員) 具体的な方策・技術について「自然採光・通風…」とあるが、「自然換気」という表現の方がいいのではないか。

## 5. その他

(事務局) 事務局より次回新庁舎建設基本計画策定委員会の日程について説明。

## 6. 閉会

(委員長) 閉会の挨拶